

経営発達支援計画

令和4年度 伴走型小規模事業者支援推進事業

地域経済動向調査レポート

～京丹後市版～

(令和4年1月～令和4年3月)

京丹後市商工会

地域経済動向調査レポート—京丹後市版—

～ 感染急激拡大による需要低迷、原材料高など経営環境悪化でダメージ大きい小規模企業景況 ～

令和4年5月1日

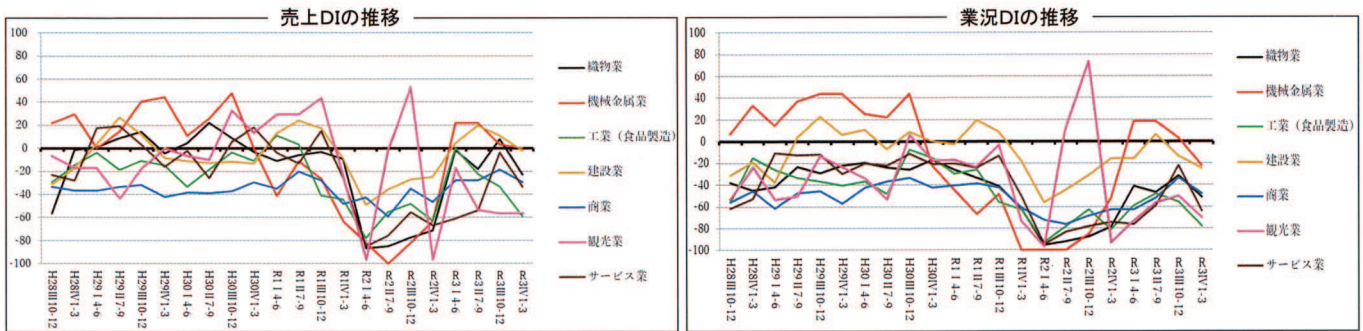
＜調査概要＞

【調査対象】地域内の小規模事業者等101件 【調査期間】2022年1月～3月

【調査方法】当商工会経営支援員による巡回ヒアリングによる調査票への選択記入式

＜産業全体＞ 感染急激拡大等による原材料高など経営環境悪化でダメージ大きい小規模企業景況

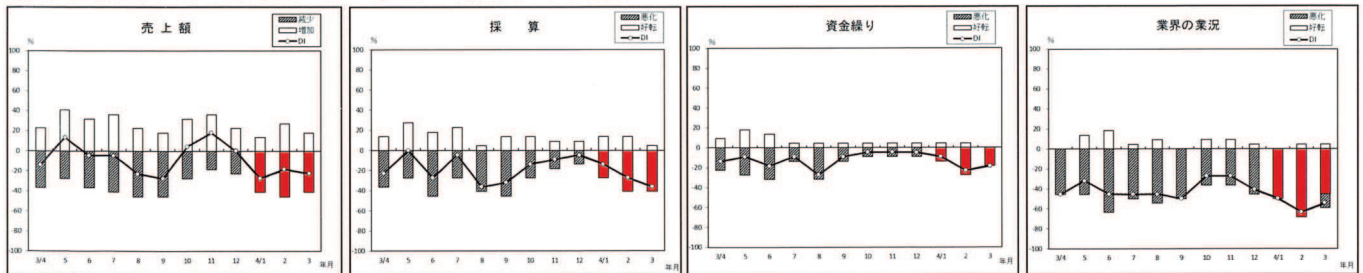
1月～3月の市内小規模事業者経済動向調査は、全てのDI項目が小幅に悪化した状態で進み、前四半期との比較では、売上・採算・業況DIが20ポイント以上と急激な悪化となった。オミクロン株の急激な感染拡大により、まん延防止等重点措置等が広い範囲で実施されたことにより、市内経済活動が大幅に縮小し、多くの業種に大きなダメージを与えた。加えて、ロシアのウクライナ侵攻による原材料不足や燃料代の高騰も重なって、さらに事業者を苦しめた。経営支援員からは、急激な需要減退となったことで、事業者の経営体力や経営意欲が尽きて廃業が増加する懸念があるとの報告も見られた。



※上記グラフは、過去の四半期毎の該当DIの平均値を算出しグラフ化したもの

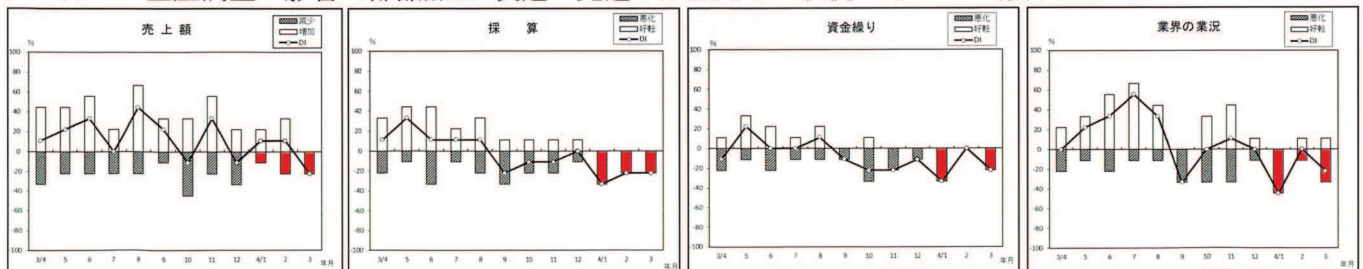
織物業 原材料高などの影響で、採算・価格転嫁に苦慮する織物業

織物業の1月～3月は、全ての項目DIで悪化した。前四半期との比較では、売上DIは30ポイント、採算DIは16ポイント、資金繰りDIは12ポイント、業況DIは20ポイントと大きく悪化した。経営支援員からは、イベント催事等の再開などによって業界の活気も戻りつつあるが、原材料が高騰して薄利となっている。事業を大きく転換する余裕もなく苦慮しているとの報告があった。



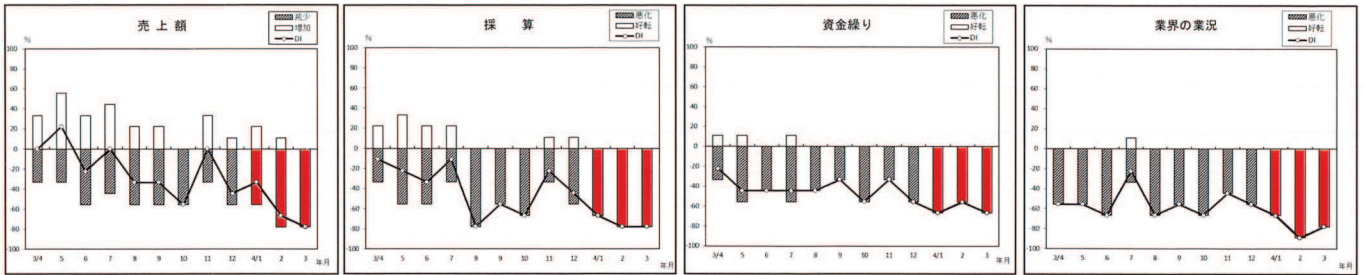
機械金属業 材料調達難・高騰で更なるコスト高が懸念され業況悪化が不安視される機械金属業

機械金属業の1月～3月は、全ての項目DIで小幅な悪化で推移した。前四半期との比較では、採算DIが18ポイント、業況DIが19ポイント悪化し、売上DIと資金繰りDIは横ばいであった。経営支援員からは、材料単価が高騰しつつも、仕入状況は回復傾向であったが、ここにきてまた仕入れの流れが悪くなっている。また、大手自動車メーカーの生産調整の影響で部品加工・製造の見通しが立たない状況にあるとの報告があった。



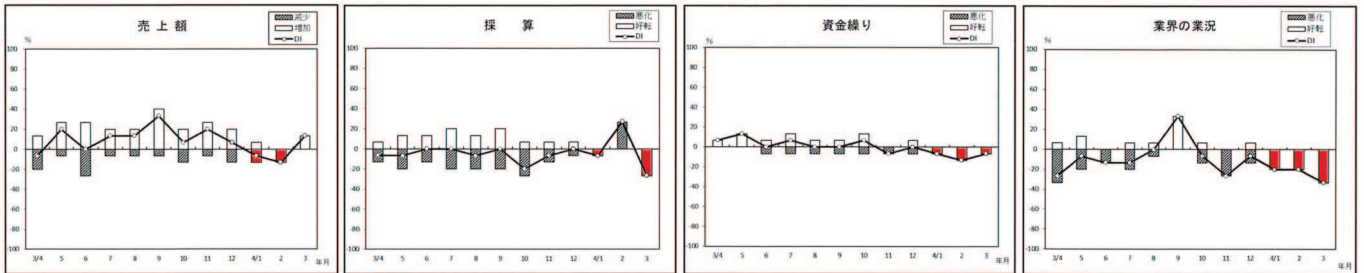
工業(食品製造) 仕入価格の高騰で採算悪化、価格転嫁が急務な工業(食品製造)

工業(食品製造)の1月～3月は売上DIと採算DIは小幅に悪化を示し推移した。資金繰りDIと業況DIは、ほぼ横ばいであった。前四半期との比較では、全ての項目DIで大きく悪化し特に採算DIは30ポイント超の悪化幅となった。経営支援員からは、飲食店向けの業務用商品は需要が低調であると共に感染拡大の影響もあって回復の兆しが見られない。また仕入価格などが高止まりして採算が厳しい中、価格転嫁が急務となっている。



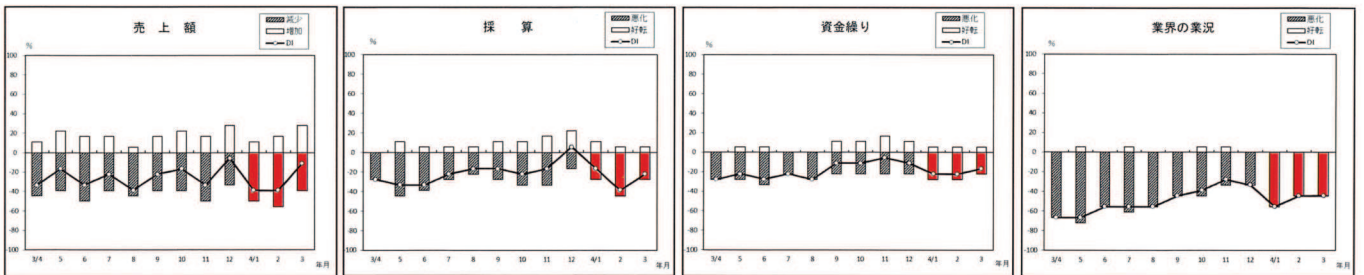
建設業 公共工事が好調も、材料の高騰、人手不足や設備等の入手難に苦しむ建設業

建設業の1月～3月は、売上DIは改善傾向、採算DIと業況DIは悪化で推移した。前四半期との比較では、全ての項目DIで悪化に転じ、特に売上DIと採算DIは10ポイント超の大きな悪化幅を示した。経営支援員からは、年度末の公共事業の需要等によって売上は堅調に推移するも、材料資材等の高騰で採算悪化に苦しんでいる事業者が多い一方で、記録的な降雪による除雪作業によって売上が増加している事業者もあるとの報告があった。



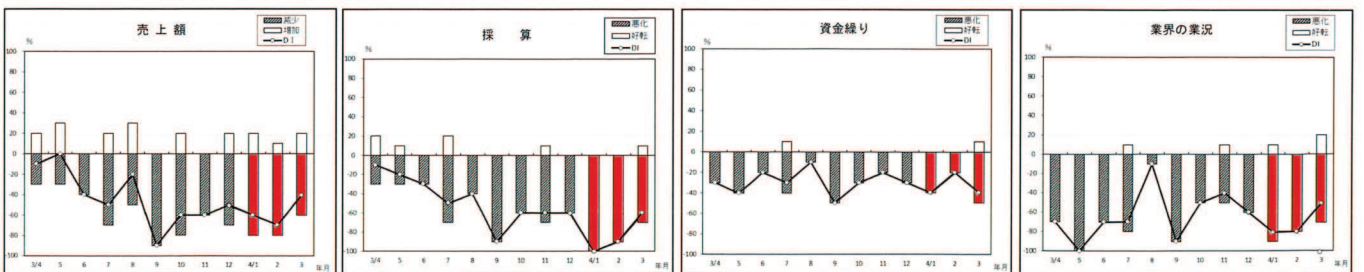
商業 感染拡大による需要の低迷や燃料・仕入価格高騰で悪化傾向に拍車がかかる商業

商業の1月～3月は、全ての項目DIで概ね横ばいを示した。前四半期との比較では、全ての項目DIが15ポイント超の大きな悪化を示した。経営支援員からは、コロナ禍の外出自粛が定着し、需要の低迷が続いている上、燃料・仕入価格高騰も重なって業界全体が落ち込んでいる。食料品関連は巣ごもり需要で堅調な売上を維持しているが、酒類の提供を伴う飲食店向けの需要は厳しい状況となっているとの報告があった。



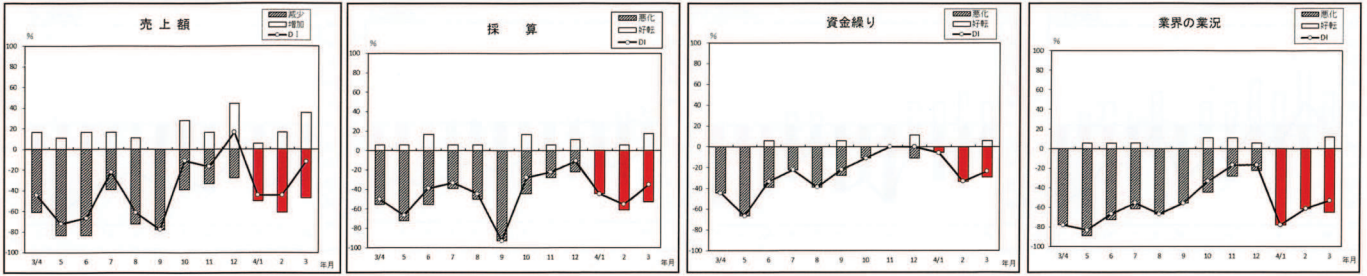
観光業 回復基調から一転悪化に転じ、精神的にも多くの不安を抱える観光業

観光業の1月～3月は、売上DI、採算DI、業況DIで悪化を示したが3月には小幅に改善した。前四半期比較では、採算DIと業況DIが20ポイント超の大きく悪化した。経営支援員からは、コロナ感染者数が高止まりの状況の中、観光客が減少し業況が悪化に転じた。また、燃料費や仕入価格の高騰による採算悪化の拡大、ゼロゼロ融資の返済、コロナ禍初期の様に客足が途絶えるなどといった多くの不安を抱える状況が続いているとの報告があった。



サービス業(飲食店) まん延防止解除で徐々に回復傾向も原材料等の高騰で採算悪化に苦しむサービス業

サービス業の1月～3月は、全ての項目DIで悪化を示したが3月に小幅に改善した。前四半期との比較では、全ての項目で20ポイント超の大きな悪化を示した。経営支援員からは、まん延防止期間は休業した店舗が多く、解除後も人数制限等の影響で客足が戻らず、加えて、原材料だけでなく特にエネルギー経費の上昇によって利益を圧迫しているとの報告があった。また、協力金の入金までに多くの時間を要し、資金繰りに苦慮しているとの報告が多く見られた。



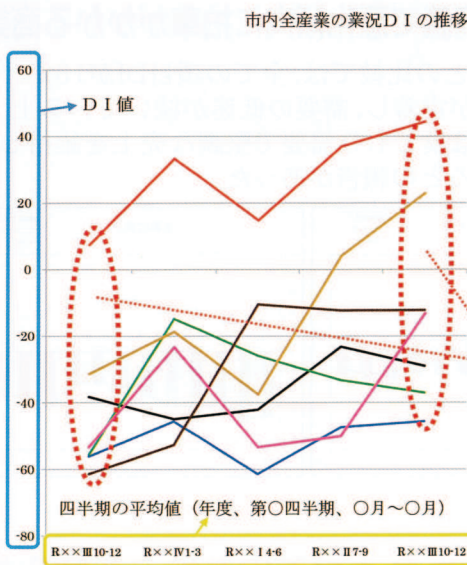
DI値とは

DI値とは、Diffusion Index(ディフュージョン・インデックス)の略で、企業の業況感や売上額などの各種判断を指数化したものです。一般的に「変化の方向性を捉える」といった特徴を持つといわれ、各指標の数値が上昇しているのか低下しているのかを調べ、景気がどれくらい波及しているかを把握するためのものです。

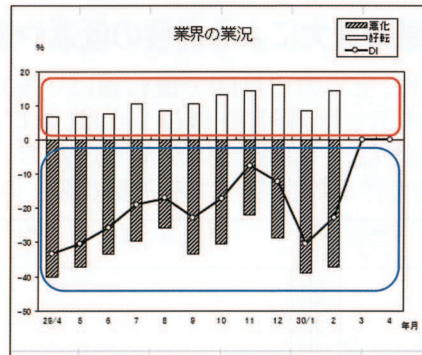
もともとは循環する景気の動きを計測するために、NBER(全米経済研究所)でウェスリー・C・ミッチェル(Wesley Clair Mitchell)らが1938年に開発したもので、現在でも内閣府が毎月公表している「景気動向指数」の算出などに使われています。

DIの具体的な算出方法は、各指標によって異なりますが、当会では、時系列データとして【売上】【採算】【資金繰り】【業界の業況】の4項目をヒアリングし、増加(プラス)/減少(マイナス)などの属性に分類して、その属性の個数の全系列数に占める割合などから算出しています。

グラフの見方



- 織物業
- 機械金属業
- 工業(食品製造)
- 建設業
- 商業
- 観光業
- サービス業



- は、項目について、「好転している」若しくは「良い」と判断した企業の推移を表しています。
- は、項目について、「悪化している」若しくは「悪い」と判断した企業の推移を表しています。

1つの見方として、「R××年度の第Ⅲ四半期(10月～12月)と比べて、赤点線部分が全体的に上に移動していて、上下範囲が大きくなっています。

このようなことから、市内産業全体の業況は、全体的に上向き傾向の一方で、格差が広がっているということが読み取れます。

※ご注意ください。これらのDI値が「絶対」若しくは「正しい」というものではありません。あくまでも感覚的な指標であり、参考数値(材料)の1つに過ぎないことをご承知下さい。